

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立荻窪高等学校（三部制） 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 内部委員の構成
校長、副校長2名、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭(総合支援部担当)、主幹教諭（進路指導担当） 計8名
- (3) 協議委員の構成
碓 寛（杉並区立桃井第二小学校長）、小松 進一（杉並区立松溪中学校長）、木内 剛（成蹊大学名誉教授）、中谷 優美子（杉並区子ども家庭部児童青少年課）、平山 恵（警視庁荻窪警察署生活安全課少年係長）、水野 珠実（荻窪中央町会副会長）、長瀬久子（荻窪東町会顧問）、植原 英雄（旧荻窪高校全日制同窓会会長）、戸引 伸太郎（荻窪消防署地域防災担当係長）、村本 真一（杉並区機器管理室防災課防災担当係長） 計10名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和6年6月28日（金）16：10から 内部委員7名 外部委員6名
①学校長挨拶、②自己紹介、③本校の共有課題及び状況説明（教務部・生活指導部・総合支援部・進路指導部、④防災教育推進委員会について（今年度防災教育計画、避難訓練、防災教育講話）、⑥意見交換
第2回 令和6年11月29日（金）16：10から 内部委員8名 協議委員8名
①学校長挨拶、②本校の近況説明（教務部・生活指導部・総合支援部・進路指導部）、③防災教育推進委員会について（避難訓練、防災教育講話、桃井第二小学校震災救援所運営連絡会についての報告）④学校評価アンケートについて（アンケート内容について、地域向けアンケートの配布のお願い）、⑤意見交換
第3回 令和7年2月7日（金曜日）16：15～内部委員8名、協議委員8名
①学校長挨拶、②本校の近況説明（教務部、進路指導部、総合支援部、生活指導部、笑顔と学びのプロジェクト 報告、次年度の頭髪指導について）、③学校評価アンケートに（内容および結果について）④意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
学校（教員）、生徒、保護者、近隣・地域の各観点からアンケート調査により評価を実施
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
アンケートは令和7年1月に実施した。

全校生徒	対象：656人	回収：180人	回収率：27.4%
保護者全員	対象：656人	回収：84人	回収率：12.8%
地域・住民	対象：171人	回収：87人	回収率：50.8%
教職員	対象：73人	回収：52人	回収率：71.2%

(3) 主な評価項目

令和6年度は、昨年度に刷新されたアンケート内容を踏襲しながら、一部質問を追加して実施した。具体的には、生徒、保護者、教職員に対し（1）今年度から本校で導入した「スタディサプリ」の活用状況に関する質問、保護者と近隣・地域住民に対し（2）昨年度から学校全体で検討を行っている「頭髪の自由化」による学校への印象の変化を問う質問、教員に対し、（3）経験年数を問う質問をそれぞれ追加した。

今年度の新たな試みとして、「Forms」を使用し、インターネット上でのみアンケートに回答するようにした。ただし近隣・地域住民用については紙面による回答も併用した。また、保護者へのアンケート依頼は「Classi」による配信とした。また、生徒用アンケートについては、外国にルーツのある生徒を考慮し、アンケート項目に「ひらがなのみによる表記」も併記し、回収率の向上を試みた。

【授業】教員が試みている授業改善、生徒と向き合う姿勢などを問う質問項目

【生活指導】規律指導と豊かな学校生活を観点とした質問項目

【支援活動】本校の特徴をなす支援活動について生徒の実感を問う質問項目

【進路指導】自立をするための進路決定を観点とした質問項目

【特別活動】特別活動における自己の拡張について問う質問項目

【コミュニケーション・スキル】学校生活やコミュニケーション・スキルについての質問項目

教員用アンケート、保護者用アンケートは、上記生徒版アンケートとはほぼ同じ内容を質問している。なお、保護者用では、子どもとのコミュニケーション、教員とのコミュニケーションを追加し、教員版では、保護者とのコミュニケーションの他、教員個人の取り組みについての質問項目を設けている。

(4) 主たる評価結果の概要及び考察

【授業】

ア 授業内容について

(ア) 生徒：小・中学校での学習内容を再確認したり、独自のプリントやスライド教材を用意したりするなど、教科書の内容が深く着実に身につくように創意工夫している授業が多い。

十分そう思う…30% そう思う…52% あまりそう思わない…12% 思わない…6%

(イ) 保護者：小・中学校での学習内容を再確認したり、独自のプリントやスライド教材を用意したりするなど、教科書の内容が深く着実に身につくように創意工夫している授業が多いと感じている。

十分そう思う…12% そう思う…68% あまりそう思わない…18% 思わない…2%

(ウ) 教員（時間講師を除く）：私は、小・中学校での学習内容を再確認したり、独自のプリントやスライド教材を用意したりするなど、教科書の内容が深く着実に身につくように創意工夫をしている。

十分そう思う…49% そう思う…51% あまりそう思わない…0% 思わない…0%

生徒及び保護者の約8割が本校で行われている授業での工夫について肯定的に捉えている。

教員全員が授業の工夫について肯定的な回答をしており、教員側の努力の成果が生徒や保護者に伝わっていることが伺える。このことは、生徒用質問項目6「本校に入学してから、勉強の楽しさや予習・復習の大切さを実感し、学習に取り組む姿勢が向上した」に対し、75%の生徒が肯定的な回答をしている結果にもつながっているものと考えられる。

イ 「スタディサプリ」の活用について

(ア) 生徒：「スタディサプリ」は、授業で使用されると、学習が効果的に深まると感じる。

十分そう思う…14% そう思う…45% あまりそう思わない…23% 思わない…18%

(イ) 保護者：子どもは、「スタディサプリ」を予習・復習や学び直し等の自習に役立てている。

十分そう思う…5% そう思う…35% あまりそう思わない…38% 思わない…23%

(ウ) 教員：「スタディサプリ」の利用は、生徒の学びを深めるために良い効果を生んでいる。

十分そう思う…10% そう思う…21% あまりそう思わない…54% 思わない…15%

生徒は約半数が授業中の「スタディサプリ」の活用に関心を感じているものの、教員は約7割が否定的である。保護者の約4割は、生徒が家庭学習に「スタディサプリ」を役立てていると認識している。効果的な学習ツールとして活用のノウハウを蓄積していき、肯定的な意見の割合を増やしていくことが望まれる。

【生活指導】

ア 生徒指導における説明について

(ア) 生徒：本校は、挨拶・頭髪・遅刻などの指導にあたって、規律を守る大切さを理解・納得がいくように説明してくれている。

十分そう思う…24% そう思う…43% あまりそう思わない…19% 思わない…14%

(イ) 教員：私は、挨拶・頭髪・遅刻などの指導にあたって、規律を守る大切さを理解・納得がいくように説明している。

十分そう思う…25% そう思う…60% あまりそう思わない…15% 思わない…0%

上記の結果においては、教員側の85%が、生徒に納得のいく説明をしていると回答しているのに対し、生徒側では納得のいく説明をされているとする割合は67%にとどまる。また、納得のいく説明が全くなされていないとする生徒も14%おり、教員・生徒間のギャップを受けていくことが課題である。なお、保護者は同様の質問に対し80%が肯定的に捉えている。

イ 頭髪の自由化について

(ア) 近隣住民：頭髪（脱色や髪染め）を自由にすることは、本校や本校生徒に対する印象に影響があると思いますか。

十分そう思う…19% そう思う…39% あまりそう思わない…27% 思わない…17%

(イ) 保護者：頭髪（脱色や髪染め）を自由にすることは、本校や本校生徒に対する印象に影響があると思いますか。

十分そう思う…10% そう思う…35% あまりそう思わない…32% 思わない…24%

13%ほどの差ではあるが、印象に影響があるとする割合は地域住民の方がやや多く、全体的に意見が二分されている。保護者の自由意見の中には「頭髪を自由化するのであれば、むしろ良い印象を受ける」とする意見もあるなど、保護者の過半数は頭髪の自由化について肯定的に捉えている。

ウ 生徒のマナーについて

(ア) 生徒：本校は、生徒の多くが通学時でも校内生活でも他者に敬意を払いマナーを守っている。

十分そう思う…17% そう思う…46% あまりそう思わない…21% 思わない…16%

(イ) 保護者：本校は、生徒の多くが通学時でも校内生活でも他者に敬意を払いマナーを守っていると思う。

十分そう思う…5% そう思う…62% あまりそう思わない…30% 思わない…3%

(ウ) 教員：本校の生徒の多くは、通学時でも校内生活でも他者に敬意を払いマナーを守って生活している。

十分そう思う…2% そう思う…52% あまりそう思わない…38% 思わない…8%

(エ) 近隣・地域住民：生徒の徒歩通学時は、騒いだり、広がって歩いたりせず、マナーを守っていると思いますか。

十分そう思う…14% そう思う…71% あまりそう思わない…14% 思わない…2%

要求水準の関係から肯定的な意見の割合が一番低いのは教員である。地域住民は概ね好意的に生徒たちを見てくれており、肯定的な意見が多い。しかしながら自由意見の中には「店内でかたまり大声上げて迷惑なこともある。」との意見もいただいております、生徒への定期的な啓発が必要である。

【支援活動】

ア 相談しやすい雰囲気づくりについて

(ア) 生徒：本校は、生徒が自分や友人関係の悩みについて、気軽に相談して支援を受けられる雰囲気がある。

十分そう思う…20% そう思う…61% あまりそう思わない…10% 思わない…9%

(イ) 保護者：本校は、自分や友人関係の悩みについて、気軽に相談して支援を受けられる雰囲気がある。

十分そう思う…12% そう思う…62% あまりそう思わない…22% 思わない…4%

(ウ) 教員：本校は、生徒が自分や友人関係の悩みについて、気軽に相談して支援を受けられる態勢を作っている。

十分そう思う…39% そう思う…59% あまりそう思わない…2% 思わない…0%

100%近い教員が肯定的な回答をしているが、生徒のうち約2割が否定的な回答を行っている。否定的な回答をした生徒は、次の質問「家庭の悩みについて学校に気軽に相談して支援を受けられる雰囲気をつくっている。」についても、ほとんどが否定的な回答をしている。2つの質問から、家庭の悩みを相談できる生徒は自分や友人関係に関する悩みも相談できるが、自分や友人関係の悩みを相談できる生徒のうち、家庭に関する悩みを相談できないと考えている生徒は約7%いる。教員の96%は「家庭の悩みを相談しやすい雰囲気を作っている」ことに肯定的である。

イ 荻高スペース（旧・荻高カフェ）

(ア) 生徒：本校の「荻高スペース」は、学校生活に新しい魅力を作り出している。

十分そう思う…15% そう思う…51% あまりそう思わない…22% 思わない…13%

(イ) 保護者：本校の「荻高スペース」は、学校生活に新しい魅力を作り出している。

十分そう思う…10% そう思う…58% あまりそう思わない…29% 思わない…3%

(ウ) 教員：本校の「荻高スペース」は、学校生活に新しい魅力を作り出している。

十分そう思う…10% そう思う…41% あまりそう思わない…37% 思わない…12%

「荻高スペース」については、教員における肯定的な回答の割合が他よりも少ない。教員側があまり魅力的に感じていないのであれば、より魅力的な場とするための方策を積極的に検討していく必要がある。

【進路指導】

ア 進路指導について

(ア) 生徒：本校の進路指導では、生徒ひとりひとりの進路について、卒業後の自立を目指した親身な指導を行っている。

十分そう思う…19% そう思う…64% あまりそう思わない…11% 思わない…6%

(イ) 保護者：本校の進路指導では、生徒ひとりひとりの進路について、卒業後の自立を目指した親身な指導を行っている。

十分そう思う…9% そう思う…62% あまりそう思わない…26% 思わない…3%

(ウ) 教員：本校の進路指導では、生徒ひとりひとりの進路について、卒業後の自立を目指した親身な指導を行っている。

十分そう思う…27% そう思う…63% あまりそう思わない…8% 思わない…2%

保護者における否定的な意見が29%と比較的多い。否定的な回答をした生徒は17%である。また教員の90%は肯定的に考えており、若干の乖離がある。

イ 総合的な探究の時間について

(ア) 生徒：本校の総合的な探究の時間は進路学習に役立っている。

十分そう思う…17% そう思う…56% あまりそう思わない…19% 思わない…8%

(イ) 保護者：本校の総合的な探究の時間は進路学習に役立っている。

十分そう思う…7% そう思う…62% あまりそう思わない…25% 思わない…7%

(ウ) 教員：本校の総合的な探究の時間は生徒の進路学習に役立っている。

十分そう思う…15% そう思う…56% あまりそう思わない…25% 思わない…4%

肯定的な回答の割合は、生徒、保護者、教員いずれも69%～73%と同程度である。今後、なぜ否定的な回答になっているのかを分析し、否定的な回答を減少させていく必要がある。

ウ 外部講師による講話など進路指導の充実について

(ア) 生徒：本校の進路指導は、外部講師の講話などを活用し、卒業後の自立を目指した進路指導が、充実していて良いと感じる。

十分そう思う…19% そう思う…61% あまりそう思わない…11% 思わない…8%

(イ) 保護者：本校の進路指導は、外部講師の講話などを活用し、卒業後の自立を目指した進路指導が、充実していて良いと感じる。

十分そう思う…10% そう思う…61% あまりそう思わない…26% 思わない…3%

(ウ) 教員：本校の進路指導は、外部講師の講話などを活用し、卒業後の自立を目指した進路指導が、充実していて良いと感じる。

十分そう思う…20% そう思う…67% あまりそう思わない…10% 思わない…3%
進路指導の充実についての肯定的な回答は、教員が87%、生徒が80%、保護者が71%である。保護者の否定的な回答が29%とやや高くなっている。

【特別活動】

ア 部活動について

(ア) 生徒：あなたは現在、部活動に所属していますか。
所属している…25% 所属していない…75%

(イ) 部活動によって技量の向上ができて満足している。
十分そう思う…35% そう思う…38% あまりそう思わない…13% 思わない…14%

(ウ) 部活動をしない時間を、補習、個人的な技量向上、趣味に有効に使っている。
十分そう思う…42% そう思う…39% あまりそう思わない…11% 思わない…8%

部活動に入っている生徒の、部活動に対する満足度は、73%が肯定的に捉えている。部活動に入っていない生徒の81%が部活動をしない代わりに時間を有意義に使用できていると考えている。

【コミュニケーション・スキル】

ア コミュニケーション・スキルの獲得について

(ア) 本校は、完全選択制ではなく、HRが中心にあるので、クラスメート同士の交流場面が多いことで、コミュニケーション・スキルの獲得に役立っている。
十分そう思う…16% そう思う…54% あまりそう思わない…18% 思わない…12%

イ デジタル・コミュニケーションについて

(ア) 生徒：自分は、デジタル・コミュニケーションで特に大切なスキル（他者の人権に配慮するスキル、犯罪に巻き込まれないスキル、個人情報を保護するスキル）を身につけ、実際場面で活かしている。
十分そう思う…19% そう思う…53% あまりそう思わない…16% 思わない…12%

(イ) 保護者：うちの子は、デジタル・コミュニケーションで特に大切なスキル（他者の人権に配慮するスキル、犯罪に巻き込まれないスキル、個人情報を保護するスキル）を身につけ、実際場面で活かしている。
十分そう思う…9% そう思う…68% あまりそう思わない…20% 思わない…3%

(ウ) 教員：生徒たちは、デジタル・コミュニケーションで特に大切なスキル（他者の人権に配慮するスキル、犯罪に巻き込まれないスキル、個人情報を保護するスキル）を身につけ、実際場面で活かしている。
十分そう思う…4% そう思う…47% あまりそう思わない…43% 思わない…6%

例年と同一傾向であるが、教員における否定的な回答の割合から、教員側は生徒のデジタル・コミュニケーション・スキルについてはまだ十分ではないと考えていることが伺える。

【保護者用アンケート】より

ア 保護者と担任間のコミュニケーションについて

(ア) 保護者：担任と保護者は、いつでも気兼ねなく話ができる開かれた関係が結べている。
十分そう思う…16% そう思う…67% あまりそう思わない…13% 思わない…4%

(イ) 教員：本校では、担任と保護者とは、いつでも気兼ねなく話ができる開かれた関係が結べている。
十分そう思う…17% そう思う…65% あまりそう思わない…15% 思わない…3%

回答の割合から、教員と保護者間の認識がほぼ一致していると考えられる。

【教員用アンケート】より

ア ライフ・ワーク・バランスについて

(ア) 育児又は介護のための時差通勤や育児短時間勤務等を取りやすい職場環境を作るなど、ライフ・ワーク・バランスの向上に配慮した学校経営を理解し、私も積極的に対応しようと努めている。
十分そう思う…33% そう思う…60% あまりそう思わない…6% 思わない…0%

(イ) 私は、ライフ・ワーク・バランスを考慮したタイム・マネジメントのスキルが身につけている。
十分そう思う…31% そう思う…44% あまりそう思わない…21% 思わない…4%

(ア) (イ) で「十分そう思う」と回答した教員は、ほぼ一致している。(ア) の項目で「十分そう思う」「そう思う」と回答した教員のうち、約22%が「タイム・マネジメントのスキル」が身に付いていないと考えている。

【近隣・地域版アンケート】より

(ア) 荻窪高校が三部制の学校であることを知っているか
知っている…73% 知らない…27%

(イ) 生徒の頭髪などの身だしなみについて、以前に比べ改善していると感じますか。
十分そう思う…19% そう思う…66% あまりそう思わない…13% 思わない…2%

(ウ) 三部制や定時制を希望する生徒や保護者が知人にいたら荻窪高校を薦めることができますか。
十分そう思う…15% そう思う…67% あまりそう思わない…12% 思わない…6%

身だしなみについては、一昨年度は肯定的な回答は60.9%であった。今年度は85%と本校生徒の身だしなみが改善してきていると捉えられていることが伺える。こうした生徒の素行や身だしなみの改善が、「知人に荻窪高校を勧められる」と回答した方が8割に上る結果につながっていると考えられる。

【全体を通して】

学習面では引き続き授業については教員の工夫が生徒に受け入れられ、評価されている。今年度導入した「スタディサプリ」については約半数の生徒が効果的に活用できていると感じているものの、教員の約7割は効果に懐疑的である。効果的な活用方法を教員側が積極的に模索し、活用促進を図っていく必要がある。

生徒指導では、頭髪の自由化について昨年度から検討をしてきた。生徒の自由意見欄にも頭髪指導に関する意見が複数みられた。自由化に対する保護者と地域の回答は、学校や生徒に対する印象に影響について、「ある」・「ない」がほぼ半数となっており、意見が割れている。年を経るごとに地域の方からの本校生徒の印象は良くなっているが、次年度、試行的に頭髪を自由化した際に、印象に変化があるかどうかを確認したい。

アンケートの質問内容については、その選択をした理由を問いていないため、背景についての分析ができていない。肯定的な意見が多くを占める質問内容であっても、割合のみで判断し、安心するのではなく、否定的に捉えている生徒や保護者について、何が背景にあるのか、どうすれば否定的な回答が減っていくのかを検討していく必要がある。

以上